

手賀沼・手賀川活用推進のためのアクションプラン

<目次>

はじめに

1. 策定の経緯	1
2. 本書のねらい	3

第一章 手賀沼・手賀川活用の実態

1. 手賀沼・手賀川の特徴	5
2. 手賀沼・手賀川活用の課題と目標	9
3. 手賀沼・手賀川活用の現況	10
4. 手賀沼・手賀川活用を進める上での視点の整理	15

第二章 手賀沼・手賀川のエリア別計画・事業

本章の概要	20
A. ふるさと公園エリア	22
B. 手賀沼公園エリア	28
C. 高野山新田（手賀沼親水広場周辺）エリア	34
D. 道の駅しょうなんエリア	41
E. 手賀沼フィッシングセンターエリア	47
F. 川の停車場エリア	53

第三章 “広域連携” および “官民連携” に関する現況整理と今後の取り組みについて

本章のねらい	58
I. 交流拠点間の“つながり”づくりに向けた取り組み	60
II. 地域情報の収集・整理・分析・発信	63
III. 案内サイン・誘導サインの整備	66
IV. 手賀沼・手賀川を周回するサイクリングロード整備の検討	68
V. 水辺のオープンカフェの検討	69

第四章 本アクションプラン策定後の取り組み体制について

74

はじめに

1. 策定の経緯

都心から 40 km圏内に位置する手賀沼・手賀川の存在は、柏市、我孫子市、印西市をはじめ流域に暮らす市民にとって貴重な財産であり、その水辺を取り巻く豊かな自然環境は訪れる人の憩いや癒しの場となっています。

しかし、柏市、我孫子市、印西市など、いくつもの自治体にまたがる手賀沼・手賀川をひとつの地域資源として活用していくためには、一つの自治体が個別に取り組むだけでなく、地域間をまたがる広域連携を前提とした情報交換や可能な範囲での事業連携が必要となります。

そこで、平成 23 年 11 月に、柏市、我孫子市、印西市の 3 市と千葉県、国土交通省利根川下流河川事務所（*）で構成する「手賀沼・手賀川活用推進協議会」を設立し、手賀沼・手賀川を地域共通の資源として活用し、地域の魅力を向上させるべく総合的な戦略を検討してきました。

そして、平成 27 年 6 月に、「つながるウォーターサイド TEGA」報告書（以下、TEGA 報告書）を策定し、手賀沼・手賀川を活用した地域の魅力向上やブランドイメージづくりの契機となる、3つの基本方針とそれに対応する想定事業を掲げました。その上で、これらの取り組みの先導的な事業としてリーディングプロジェクトを以下のとおり 8 つ設定しました。

〈TEGA 報告書で設定された 8 つのリーディングプロジェクト〉

1. 水辺のオープンカフェの運営
2. 農業交流拠点の整備
3. 水上アクティビティの実施
4. 統一的なデザインによる観光案内板等の整備方針の確立
5. 統一的なデザインによる観光トイレ等の整備
6. 桜並木の整備
7. 手賀川側道整備
8. 地域情報の収集・整理と発信

*現在、国土交通省利根川下流河川事務所は当協議会のオブザーバーです。

■「つながるウォーターサイド TEGA 報告書」で提示した想定事業

基本方針	施策	想定事業 (■ ■ ■ …リーディングプロジェクトに関連する事業)
豊かな自然・歴史 ・文化をつなぐ	観光資源の発掘・活用・磨き上げ 自然・歴史文化など多様に富んだ観光資源を発掘し、活かす。	<input type="checkbox"/> 歴史・文化資源のフル活用 <input type="checkbox"/> 伝統芸能・技術の活用 <input type="checkbox"/> フットパスの導入（まち歩き観光） <input type="checkbox"/> 特産品の開発 <input type="checkbox"/> 健康食品開発 <input type="checkbox"/> ロゴマークの設定 <input type="checkbox"/> グルメガイド
	地域のブランドづくり 地域の魅力をトータルに感じられる共通ブランドを創出する。	<input checked="" type="checkbox"/> オープンカフェ・ショットバー <input type="checkbox"/> 水上レストラン <input checked="" type="checkbox"/> 農業交流拠点の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 休憩施設・観光トイレ <input type="checkbox"/> リラクゼーション施設 <input type="checkbox"/> 舟運等による回遊性の確保 <input type="checkbox"/> スマートモビリティ <input type="checkbox"/> レンタサイクルの充実 <input checked="" type="checkbox"/> 水上アクティビティ <input type="checkbox"/> 大型キャンプ場 <input type="checkbox"/> 環境学習 <input type="checkbox"/> 栈橋・橋りょう・遊歩道の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 桜並木の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 案内サイン・誘導サインの整備
人とまち・水辺をつなぐ	水辺を活かした魅力づくり 人々が集い、賑わいあふれる水辺空間を創出する。	<input type="checkbox"/> フルマラソン大会 <input type="checkbox"/> レガッタ大会 <input type="checkbox"/> トライアスロン <input type="checkbox"/> ツール・ド・TEGA <input type="checkbox"/> サイクリング・ランニング <input type="checkbox"/> モデル観光プランの提案 <input type="checkbox"/> グルメイベント <input type="checkbox"/> スタンプラリー <input type="checkbox"/> フォトコンテスト <input type="checkbox"/> 花火大会 <input checked="" type="checkbox"/> 地域情報の収集整理 <input type="checkbox"/> ICTなどの活用 <input checked="" type="checkbox"/> メディアへの情報発信 <input type="checkbox"/> 映画・TVのロケーションの誘致 <input type="checkbox"/> 推進組織の構築 <input type="checkbox"/> 観光ボランティア等の育成 <input type="checkbox"/> ゆるキャラの活用
	多彩なイベントの展開・観光プランづくり スポーツイベントや各地域の伝統行事など多種多様な観光資源を有機的に結び、地域の回遊性を高め、観光交流の充実を図る。	<input type="checkbox"/> 情報発信力の強化 知名度向上のため、観光情報・交流関連の情報提供の仕組みをつくる。
人と人をつなぐ	観光戦略に必要な推進体制の強化 継続して推進していくための担い手の育成や組織を構築する	

2.本書のねらい

TEGA 報告書で設定されたリーディングプロジェクト等の事業では、具体的なプランまでは示していないため、事業の方針が提示された段階に留まっていました。しかし、現状では各地で複数の活性化事業が始まっており、これから何が行われるのかを整理し、その場所で求められるリーディングプロジェクト等の事業の対象地や機能、規模を決めたり、いくつかのパターンを挙げてデザインを検討したり、将来的には民間事業者の参入についても考えていく必要があります。

そのため、リーディングプロジェクト等の想定事業の実現を目指すにあたっては、手賀沼・手賀川地域の“現況”を正確に把握したうえで、実現化のハードルとなる課題を整理し、分析することが必要となります。本書は、こうした過程を担う目的で策定したものであり、リーディングプロジェクト等の事業実現化に向けたアクションの提案書と位置付けられます。特に広域連携で取り組む必要があるものや広域連携により相乗効果が見込めるものについては、課題とその解決の方策を示し、今後の取り組みの方向性を示しています。

具体的には、本書の第一章および第二章では、手賀沼・手賀川地域で主に自治体が行っている計画や事業等を整理し、地域全体の視点と各エリアの視点から現況と課題の分析を行いました。第三章では、本協議会構成団体を中心に、広域連携で取り組むことによって、事業の進展や相乗効果が期待できるリーディングプロジェクト等の事業の実現に向け、課題や今後の方策について整理・分析を行いました。それらを踏まえ、第四章において、今後の連携のあり方や取り組み体制について示しました。

■本書の構成と「つながるウォーターサイド TEGA」報告書との関係

「つながるウォーターサイド TEGA」
～白樺派など多くの文化人が愛した自然・沼とにぎわいのあるまち～

リーディングプロジェクトの実現化に向けた課題整理と今後の取り組みに関する提案

【TEGA報告書の位置づけ】
 ◎手賀沼・手賀川地域の集客施設・観光資源・歴史文化資源・祭礼・イベント等を抽出
 ◎手賀沼・手賀川の利活用推進に向けて整備すべき施設、にぎわいの創出イベント等のリーディングプロジェクトを設定

手賀沼・手賀川活用推進のためのアクションプラン

【本書の役割】
役割A：手賀沼・手賀川地域全体で主に自治体が行っている計画や事業等を整理し、地域全体の視点から課題を分析。
役割B：手賀沼・手賀川の各エリアで主に自治体が行っている計画や事業等を整理し、エリア別の視点から課題を分析。
役割C：手賀沼・手賀川の活用を推進するための連携手法や今後の取り組み方針を具体的に示す。

【本書の構成】 以下、四段階の構成とする

第一章	<p>手賀沼・手賀川活用の実態・・・ 手賀沼・手賀川地域全体の現況と課題を明確にする。地域全体で主に自治体が行っている計画や事業等を整理し、地域全体の視点で現況と課題を分析。</p>
第二章	<p>手賀沼・手賀川のエリア別計画・事業・・・ 手賀沼・手賀川の各エリアの現況と課題を明確にする。エリアごとに主に自治体が行っている計画・事業や地域資源の現況等を整理し、エリア別の魅力向上に関する課題を分析。</p>
第三章	<p>“広域連携” および “官民連携” に関する現況整理と今後の取り組みについて・・・ リーディングプロジェクト等の相乗効果が期待できる“広域連携” および “官民連携” の現況と課題を整理し、今後の取り組み方針を示す。</p>
第四章	<p>本アクションプラン策定後の取り組み体制について・・・ 今後の手賀沼・手賀川地域の活性化に向けた取り組み体制について示す。</p>

第一章 手賀沼・手賀川活用の実態

1. 手賀沼・手賀川の特性

地理・歴史

都心から一番近い天然の湖沼

手賀沼は都心から一番近い天然の湖沼で、手賀川を含む面積は約 6.5 km²、平均水深は 86 cmとなっています。また、流域は千葉県の松戸市・流山市・鎌ヶ谷市・白井市・柏市・印西市・我孫子市の7市にまたがり、流域面積は 143.98 km²あります。このうち手賀川は、手賀沼の西端から利根川までの延長 7.7 kmの河川です。

(手賀沼の河川管理者は千葉県、手賀川の河川管理者は国土交通省)。



都心から40km(1時間)圏内に位置する手賀沼

度重なる水害と人口増に伴う水質汚濁

手賀沼は江戸時代以降、数々の治水対策と干拓事業が行われてきましたが、度重なる洪水のため失敗の連続でした。

昭和期に入り、利根川上流のダムの整備や排水機場の整備などにより洪水は減少し、昭和21～43年の国営干拓事業を経て現在の面積となりました。

その後、干拓や埋め立てにより水域面積が減少したことに加え、都心から30～40 km圏内である流域の人口が、昭和30年代以降の経済成長により増加の一途を辿り、大量の生活雑排水が流入しました。このため、昭和47年～平成12年までは全国の湖沼で水質ワースト1という状態が続きました。

現在は、下水道整備や北千葉導水事業、市民による浄化活動など、数々の努力により水質は改善し、全国ワースト1から脱しましたが、環境基準には達しておらず、引き続き水質浄化の取り組みが続けられています。

fig.1：1928年（昭和3年）頃 ※戦後の干拓前

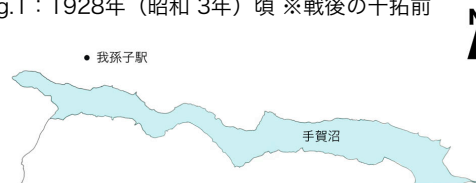


fig.2：2014年（平成26年）頃 ※戦後の干拓後



手賀沼の水域の変化

市民・民間の手で保全されてきた地域の貴重な“景観資源” “自然環境”

手賀沼は、国や県、流域市町の施策に加えて、大正・昭和初期に活動した杉村楚人冠をはじめとする多くの市民・民間の手で保全されてきました。

東京郊外の都市化が進む現在では、人と鳥をはじめとする多様な生物が共生する貴重な“自然環境”であると同時に、流域に暮らす人々に豊かな住環境を提供する“景観資源”ともなっています。



季節ごとに多様な野鳥を観察できる



道の駅しょうなん（沼側より見る）



流域内の大規模商業施設（アリオ柏）

空間

水辺の周辺には多くの史跡や 観光資源、文化施設が点在

古墳や寺社、大正・昭和初期の文化人、白樺派の文人達が暮した別荘や居宅等の史跡、往時の趣を残すハケの道やこれにつながる小道や坂道等の景観資源、文化施設に加え、道の駅や流域内に新設された大規模商業施設等、多数の集客拠点が点在します。



杉村楚人冠記念館のエントランス

変化に富んだ水辺の景観



手賀沼の俯瞰：

写真上部／水辺まで市街地が迫る我孫子市側
写真下部／水際に田畑が続く柏市側

東西に細長い手賀沼・手賀川では、水辺ごとに景観や土地利用の方法が大きく異なります。手賀沼北岸の我孫子市側は、建物が多く市街を形成しているのに対し、南岸の柏市側は、戦後の干拓事業で整備された農地が形成する田園風景が広がっています。

また、手賀沼と利根川を結ぶ手賀川の東部に位置する印西市側では、田園風景と水路、河岸のなごりを感じさせる景観を楽しむことができます。



河岸のなごりを残す印西市側の景観

水辺を巡る遊歩道、 緑道や公園等の整備

手賀沼の水辺では、遊歩道や緑道が整備され、散策や自転車でサイクリングを楽しむ人も多く、マラソンやトライアスロン大会のコースとしても活用されています。

また、手賀沼公園をはじめ、拠点となる公園や広場では、水辺を活用した親水護岸なども整備されています。



手賀沼エコマラソン



手賀沼公園の親水護岸

水辺利用

水辺に親しめるレジャーやスポーツ

手賀沼・手賀川の水の上では、釣りやボート、カヌーなど、水辺ではウォーキング、サイクリングなど、様々なレジャーやスポーツを楽しむことができます。おもに小学生を対象に、手賀沼の水の上を遊覧船で巡る環境学習なども実施しています。

また、手賀川で運行されている印西市の「ぶらり川めぐり」に加え、柏市の舟運社会実験「ぐるっと！手賀沼めぐり」が運航を始め、観光目的での遊覧船利用なども行われています。



ぐるっと！手賀沼めぐり
(道の駅しょうなん集合風景)



ぐるっと！手賀沼めぐり (遊覧船外・内観)

さらなる水辺活用の可能性

これまで各自治体により水辺空間の整備が行われてきましたが、サイクリングやランニングコースとして不十分な区間も一部見受けられます。

こうした区間では、ランニングコースやサイクリングコースとしての周回性をいかに演出するか、周辺の民間施設とどのように連携するかが、今後のにぎわい創出のポイントになります。

また、遊覧船の活用についても、各市拠点間をつなぎ、水上における周回性を確保することによって、広域的な展開による相乗効果が期待できます。

広域連携

市域を越えた多様な水辺活用のイベントの開催

手賀沼・手賀川周辺では手賀沼花火大会やジャパンバードフェスティバルに加え、手賀沼エコマラソンや手賀沼トライアスロン大会など、さまざまな分野でイベントが行われています（p.13 現況図3参照）。その中には、市域を越えて、市民参加型の水辺を活用したイベントも催されています。



手賀沼花火大会



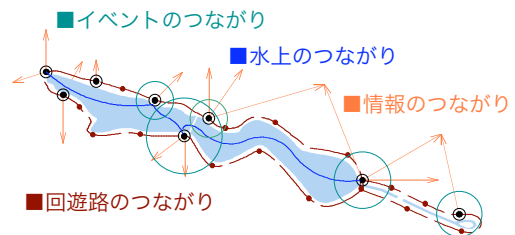
ジャパンバードフェスティバル（上2枚）



手賀沼トライアスロン大会

周辺3市間の新しい相乗効果と観光資源の可能性

現在、手賀沼・手賀川周辺で行われている事業や施設間・イベント間での新たな広域連携を図ることで、手賀沼・手賀川周辺に“点”在する多様な観光資源が“線”で結ばれ、新しい相乗効果が生まれると考えられます。



多様な広域連携手法の可能性

2. 手賀沼・手賀川活用の課題と目標

■手賀沼・手賀川活用の課題

手賀沼・手賀川周辺には自然環境や景観的な要素から文化・スポーツ的な要素まで多様な特性がありますが、こうした特性を活かした充実した水辺づくりやそれらの魅力を伝えて集客に結びつけているとは言い難い状況です。しかし、裏を返せば、活用する余地がまだ十分に残されているとも言えます。

手賀沼・手賀川の特性や現状を踏まえると、以下のような課題が挙げられます。

1. 手賀沼・手賀川の一体感やブランド性を高める整備が十分でない。
2. 水辺利用の拡充の余地が少ない。
3. 上記を広域的に推進するための仕組みが整えられていない。

■手賀沼・手賀川の活用を推進することにより目指すもの

手賀沼・手賀川にある貴重な水辺空間を活かした今までにない新しい水辺のライフスタイルを提供していくことで、訪れる人にとって魅力的な場所にするはもちろん、都心近郊の水辺利用の先進事例として広く PR できる可能性も持っています。

本書では、TEGA 報告書で掲げた目標である「つながるウォーターサイド TEGA」が実現できるよう、手賀沼・手賀川の豊かな自然や文化的資源を有効に活用し、交流人口を増加させるとともに、ブランド化を図り、にぎわいを創出するという目標を引き継ぎ、本書に掲げる課題をふまえ、手賀沼・手賀川活用推進のための長期的な将来像として以下の目標を掲げます。

1. 訪れる人々が手賀沼・手賀川の豊かな自然や文化的資源を活用し、地域を越えた新たな交流や憩いの場を共有することで、水辺空間を取り入れた独自のライフスタイルを創造できること。
2. 手賀沼・手賀川の水辺が独自のライフスタイル創造の舞台となるよう、一部だけが安全で気持ちよく、楽しい場所であるだけでなく、周辺地域全体が一体感を醸すシンボリック的存在となること。
3. そのようなライフスタイルや場所づくりを支えるため、自治体および関係機関のネットワーク、水辺利用のための共通ルールや民間参入の機会創出等、独自のシステムを持っていること。

3. 手賀沼・手賀川活用の現況

■手賀沼・手賀川を活用した現行／新規の計画・事業・施設の整理

本項では、前項で挙げた手賀沼・手賀川の特徴が、「周辺地域のどの場所で、どの様に活用されているのか」について、活用の現況を調査し整理しました。

次頁以降、手賀沼・手賀川を活用した千葉県・柏市・我孫子市・印西市における現行／新規の計画・事業・施設の活用実態を地図上に図示した“現況図1～3”にまとめました。

本書で用いた現行／新規の計画・事業・施設およびイベントその他のデータは、平成29年2月時点の、千葉県、柏市、我孫子市、印西市が関わる手賀沼・手賀川の事業等のデータを使用しています。

■現況図・リストの概要 ※次頁以降の構成順に列記

現況図1：手賀沼・手賀川周辺3市の現行／新規の計画・事業データ（2017年調査）

千葉県、柏市、我孫子市、印西市の現行／新規計画・事業および各所で核となる既存・新規施設を地図上に図示しました。

現況図2：手賀沼・手賀川周辺の主な公共・民間施設の集客力データ（2017年調査）

柏市、我孫子市、印西市内の主な公共・民間施設の集客力を地図上に円グラフで図示しました。

現況図3：手賀沼・手賀川活用周辺3市の現行のイベントデータ（2017年調査）

柏市、我孫子市、印西市で行われているイベントに関する開催場所と集客規模を地図上に図示しました。また、市が把握しているイベントリストも添付しました。

なお、現況図から読み取れる傾向および分析に関しては、p.14にまとめました。